

経営比較分析表（平成28年度決算）

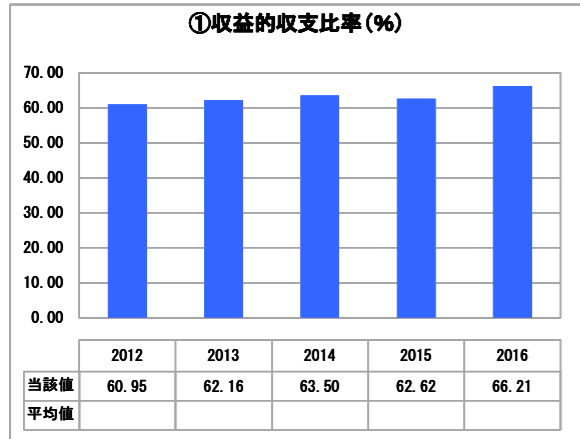
静岡県 袋井市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	38.46	85.95	1,982

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
87,603	108.33	808.67
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
33,674	6.99	4,817.45

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



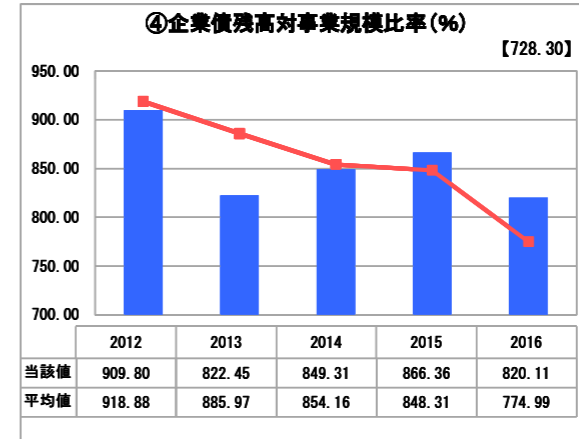
「単年度の収支」



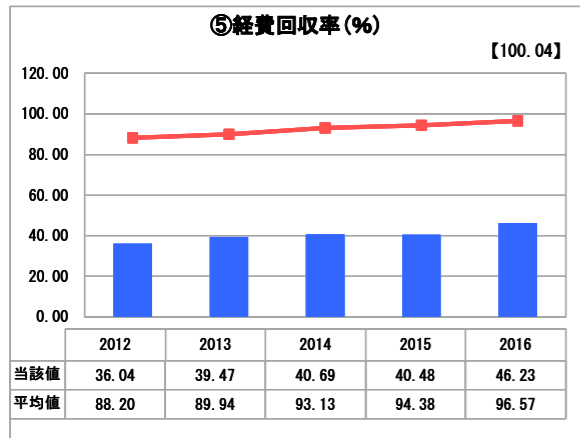
「累積欠損」



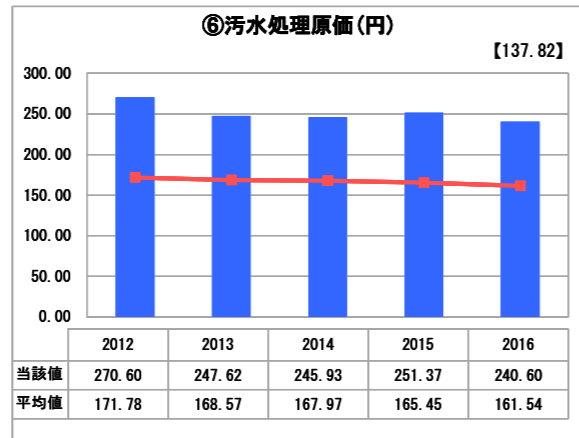
「支払能力」



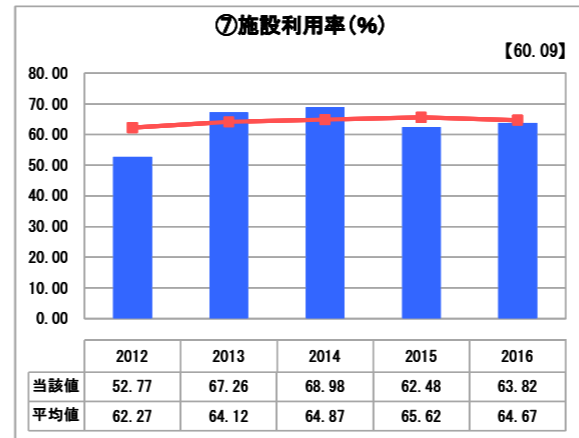
「債務残高」



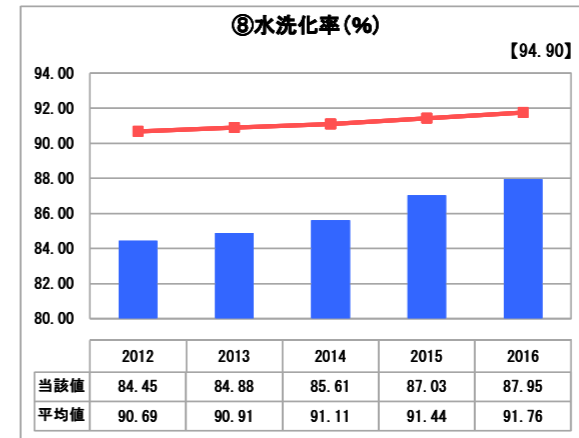
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

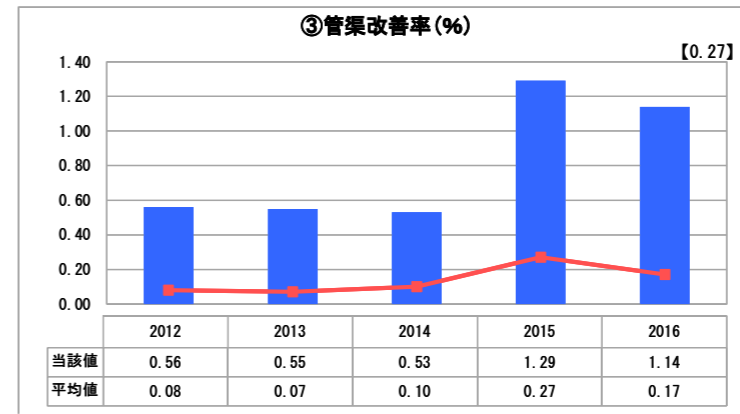
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①については、事業開始後10年間の多額な建設費を地方債で賄ったため、その元利償還金が支出全体の5割以上を占めているが、使用料の料金改定や下水道整備の進捗に伴う有収水量の増による使用料の増加、起債借入額の増により、平成28年度は前年度に比べ収支比率が約3.6ポイント増加した。
 ④については、前年度に比べ約46ポイント低くなったが、下水道整備に多額の投資をしているため、全国平均や類似団体に比べて高い比率となっている。
 ⑤については、汚水処理費の財源の6割以上を一般会計からの繰入金で賄っていること、平成28年度に使用料の料金改定を行い値上げしたものの、利用者の負担に配慮して低く設定していることから、類似団体と比べて非常に低い水準にある。
 ⑥については、有収水量が少なく、建設費用に加えて施設の維持管理費も必要となることから、類似団体より高い水準であるが、改善傾向にある。
 ⑦については、処理水量が増え、類似団体と同水準となっている。
 ⑧については、戸別訪問や工事前説明会等における接続推進活動の継続により改善傾向にあり、類似団体との差も徐々に縮まっている。

2. 老朽化の状況について

事業計画に基づき整備を進めている。類似団体と比較して高い改善率を維持している。今後も計画に沿って整備を進めていく。

全体総括

事業整備率が低く、使用料収入で賄うべき汚水処理費（公費負担分を除く）を一般会計繰入金に依存している状況が続いている。事業整備を進め有収水量を増加させるとともに、直近では平成28年度に改定を行ったが、利用者負担を配慮し低く設定してある使用料の料金体系を定期的に見直し、平成52年の事業完了時には回収率100%とすることを目指していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。